

## 福島県知事(佐藤 雄平氏)ごあいさつ。

第27回  
国際協力フォトコンテスト写真展開催

シリーズ連載 せかいのくじから「ブルガリア」

国際協力川柳——投稿特集第2弾!

福島出身の候補生

### イラク研修始まる!

この1月8日より、サマーワを含むイラクから研修員6名をむかえ、「医療機材学理・保守」のコースが郡山市の「(株)メディサン」で始まりまして。

福島県知事ごあいさつ

# 「地球市民のふくしま」を目指して



福島県知事  
佐藤 雄平 氏

今日、地球規模での人・もの・情報の交流は拡大を続けるとともに、環境や食糧、人権など、地球全体にかかわる問題も深刻化しており、私たちは、一人一人が平和の大切さを認識するとともに、グローバルな視野で発想し行動することが求められています。

このような中、県では、「地球市民のふくしまをつくる」という基本目標を掲げ、JICA二本松青年海外協力隊訓練所や協力隊OB・OGの皆さまの御協力をいただきながら、「うつくしま国際貢献リーダー養成講座」をはじめ、「ふくしまグローバルセミナー」、「地球市民フェスティバル」などの開催を通し、国際的な広い視野で地域や地球規模での課題解決に貢献できる人材の育成と、

多文化共生理解の促進に、積極的に取り組んでいます。

これからも、県民の皆さまと共に手を携え、世界中の全ての人々への心豊かな思いやりが息づく「地球市民のふくしま」づくりに取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

福島県知事 佐藤 雄平



▶18年度「国際貢献リーダー養成講座」海外研修で、タイの山岳民族の学校を訪問する団員

## 第27回 国際協力フォトコンテスト写真展開催

第27回国際協力フォトコンテストの入賞作品が17作品発表されました。福島県内では、福島県庁での展示(2月5日～2月14日)に始まり、郡山、会津、二本松などで開催が予定されています。→P. 8のイベント情報を参照ください。



★一観賞 中東・欧州部門  
「家を失い、身体の一部を失っても…」  
撮影国 パレスチナ  
撮影者 中島 章吾



★一観賞 日本国内部門  
「お似合い」  
撮影国 日本  
撮影者 大久保 善夫



★国際協力機構 理事長賞  
「心のやすらぎ」  
撮影国 ウガンダ  
撮影者 瀬畑 陽介

## せかいのくにかろ [第5回]



## 私のふるさと—ブルガリア

ブルガリア語 語学講師 マリノフ・ヴラディミール(ヴラド先生)

リラ修道院



必ず旅人が訪れ、空気がとてもキレイな場所として有名なブルガリア最大の観光地である「リラ(Rila)修道院」を紹介しよう。

リラ修道院は、首都ソフィアから南西約120キロ、車で2時間半ほどのリラ山地の山間(標高1,147m)にあり、1983年、ユネスコの世界文化遺産に登録された。ブルガリアは約500年間、オスマン・トルコの支配が続き、今では宗教と文化の中心となっている。現在の修道院はイヴァン・リルスキー(876-946)という僧が場所を選び、10世紀に建設して以来信仰を守り通している。中庭を囲む外壁部分である僧院はそのまま防御壁にもなっており、日本の城を思わせる。建築がしっかりしていたので、中にある歴史博物館には書籍や写本など豊富に現存している。

ブルガリアは民族的にはスラブ系が混在しており、アジアからヨーロッパを含む、東西南北の通り道として、様々な民族、文化、料理、言語が影響しあっている。

ちなみにキリル文字はロシアの文字と呼ばれますが、今から千年以上昔にブルガリアの僧侶キリルとメトディオスの兄弟が、キリスト教を広めるためにギリシア文字を改良したものである。ギリシア文字ではスラブの音を表現できなかったためキリル文

字となったのである。

近年、ブルガリアには、日本人の観光客、さらには移住する人が増えている。毎春、バラ祭が行われ、現地の人と共に、毎朝、太陽が昇る前の4時ごろからバラ摘みを行っている。ブルガリア・ダマスク・ローズオイルは、350年前から世界の最高級香水メーカーの原料になるほどで、上質なオイルを作るためには、早朝の花摘みが欠かせない。そもそもはマケドニア帝国のアレキサンダー王がシリアから根を持参したと言われており、バラの谷と呼ばれるカルポロとカザンラクの谷間で、風や湿度や土など気候に守られて品質のよいオイルが作られている。バラの収穫時には、子供たちが日本の「なまはげ」のような衣装を着て踊る姿も見られる。

さて、ブルガリア人から見た日本人のイメージは、親切、優しい、丁寧、正直等で、日本人に興味を持つ人が多い。また、日本の生花、武道、文化、さらに、車やハイテク商品(CDなど)など品質のよいものを作る国としても有名である。最近では、琴吹州間の人気もありブルガリアでも相撲が人気である。日本文化を愛する日本人から見ると相撲が国際化していくことをどう思うかはわから

ないが、相撲で外国人が活躍することは国際的にも知名度が上がり良いことだと思う。ちょうどこの記事が掲載されるころ、3月1日はマルテニーツァという春を祝う祭りがある。まるでサンタクロースの女性バージョンのような「マルタばあさん(8月のおばあさん)」が、赤と白の毛糸で編みこんだ飾りを、2月28日の夜に子供たちに着けたり、または交換したりして、「健康・美容(女性)・豊作」を祈る。ブルガリアの人々は冬の終りにアフリカから戻ってきた「コウノトリ」を見るまでは飾りをずっとつけており、幸福のしるし「コウノトリ」を見た人から、春が来た幸せを祈り、その飾りを果物の木(ナシやプラムなど)につけて豊作を祈願する。ブルガリアは、観光地としてはこれから伸びていく可能性を秘めている意味からも穴場といえる。日本人の中にも、年金世代はすでに数世帯が移住しており、生活費などが日本の半分くらいのため注目されている。日本のみなさん、ブルガリアを堪能しに行きませんか。

さて、ブルガリアへの青年海外協力隊派遣は今回の隊次で終了する。私の最後の授業が来る日もあとわずかとなった。今後は、バラの製品の紹介を続けたい。



ブルガリア

## ブルガリア Data

面積:11,09万km<sup>2</sup>(日本の約3分の1)  
人口:776万人(2004年、国家統計局)  
首都:ソフィア  
通貨:レフ(複数形:レヴァ)  
為替レート:1ユーロ  
=2レヴァ(固定相場制)



## 次回予告 アラビア語、フランス語語学講師 ファリド先生

…どうぞお楽しみに!!



## World Quiz ワールドクイズ

ブルガリアの会とも呼ばれるローズオイルは、ブルガリアにある「バラの谷(ローズドリナ)」で育成されている。さて、100のローズオイルを精製するのに1体どれだけのバラの花が必要でしょうか?

①125本 ②250本 ③2500本

答えは、●ページに

## JICAデスク — 徒然なるままに…

2006年12月16日～17日「ふくしまグローバルセミナー2006」終了!

今年度がちょうど10年の節目になった、ふくしまグローバルセミナー2006。名称の変遷を重ね、プログラムも年々進化を遂げ、今年度も130名の方々のご参加をいただきました。

今年度のテーマは、～体験から学び、出会いからはじまる～。1泊2日のセミナーは、県内のNGOや青年海外協力隊OV、大学生、国際理解教育を実践する教員らによる、海外での活動報告や、異文化体験シミュレーションゲーム、外国文化理解講座が全25分科会と盛りだくさんの内容でした。初めての参加者が6割で、高校生から70代の方まで幅広い年齢層130名。共に学べる講座への満足度も高く、二本松の青年海外協力隊訓練所に宿泊でき、世界の現状に思いを馳せ料理を頂いたということもあって、最後はみんな笑顔で生き生きと訓練所を去っていきました。ここでの学びと出会いから、何かをはじめるきっかけになればと願っています。



▲終わりの全体会「世界がもし100人の村だったら～ふくしまバージョン～」

国際協力やNGOのご相談は…

JICAと福島県の連携促進など、各種ご相談を「国際協力推進員」が承ります。ご連絡は下記までお願いします。

創福島県国際交流協会 TEL: 024-524-1315 / FAX: 024-521-8308 / URL: <http://www.worldvillage.org/>



## 所長雑感

### JICA二本松所長 筒井 昇

◆所長イラスト：青年海外協力隊 平成18年度1次隊 廣瀬智子さん

今年の正月に20年ぶりに映画館に行った。クリント・イーストウッド監督の作品である「硫黄島からの手紙」を見るためである。俳優の渡辺謙が硫黄島総指揮官・栗林忠道中将に扮し、制空権、制海権を失った日本軍が島内に地下壕を掘り、米国海兵隊の兵士たちをして「史上最悪の戦闘」「地獄の中の地獄」と言わしめたゲリラ戦を展開し玉砕した映画である。この映画鑑賞に先立ち、私は大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した「散るぞ悲しき」（梯久美子著・新潮社）を読んでいたの、主人公の栗林中将のことはある程度頭の中に入れていったが、孤立無援となった日本軍将兵の玉砕シーンは映画ならではの迫力があり、戦争の悲惨さをまざまざと見せつけられた。

日本の敗戦が色濃くなった昭和20年2月、グアム、サイパンを制圧した米軍は、日本本土攻撃の橋頭堡として硫黄島を占領するために、おびただしい数の航空機と艦船の支援を受けた6万人の海兵隊員を上陸させ、同島を死守せんとする2万人の日本軍と対峙し、36日間の壮絶な戦闘を繰り広げた。硫黄島の守備隊の任務は、他の南太平洋の島しょ国と同様に米軍の本土進攻を少しでも遅らせる時間稼ぎのためであり、この目的を遂行するために約2万人の日本兵が玉砕したのである。アリューシャン列島のアッツ島や南太平洋の島々や沖縄でも多くの日本兵が玉砕したが、伝統的な水際作戦を捨て、地下壕を掘り最後までゲリラ戦法で米軍を苦しめたのはパラオのペリリュー島と硫黄島だけであり、その陰には二人の智将の存在があった。

栗林中将は、戦前に米国留学の経験や武官としてカナダに駐在するなど敵国の状況をよく知り、合理的な考え方をする指揮官であった。常に家族の安否を気遣い、きめ細やかな内容の手紙を書き送る家族思いの人物であるとともに、兵士を大事にし万歳突撃などで無駄死にすることを禁じた。圧倒的に優勢な兵力を有する米軍の猛攻のもとで、栗林中将は2万人の将兵を死地に追いやるしか選択の余地がない状況の中にあっても、最後の一兵卒まで徹底抗戦し、少しでも米軍の本土攻撃を遅らせる努力をした指揮官であった。

太平洋戦争中、多くの日本人の犠牲者の上に今日の日本の繁栄は築かれたが、果たして現在の日本は、かれらに対して恥ずかしくない国になったのだろうか。毎日メディアに登場する凄惨な事件や信じられないような事故、社会全体に広がるモラルの

低下や自由を履き違えた自己中心的な人間の跋扈など枚挙にいとまない。経済的繁栄を優先させ、家庭や教育現場で道徳や倫理、躰等を怠ってきた付けが回ってきたのであろう。

私は海外勤務を終え帰国するたびに、公共施設や公共交通機関の中で若者の品格や道徳（モラル）が著しく低下してきたな、との印象を強く持った。今日の日本では、経済的な繁栄の一方で家族愛、祖国愛、公共心、道徳心、宗教心などが失われ、信じられないような事件や不祥事が続発している。教育分野でも学級崩壊、いじめ、自殺、未履修問題、教員の資質や教育委員会の問題、政府によるタウン・ミーティングのやらせ問題等々改善しなければならない喫緊の課題が山積している。また、公務員倫理や企業倫理の喪失が起因する事故や事件も多発しており、飲酒が原因となった事故も一向に減らない。こうした現象を見ていると、日本は戦後、軽武装、経済成長重視で突っ走ってきたが、豊かさを追求するあまりに多くの事柄を犠牲にしてことがよくわかる。また、自由や個を大切にすぎたために、本来、家庭や学校やコミュニティで教えるべき躰がきちんと教えられてこなかったことや、「人間はどう生きるべきか」ということを子供たちに考えさせることすら怠ってきた結果、あまりに自己中心的な道徳心のない子供や大人が増えてきた。市場経済の申し子である村上ファンドやホリエモンが良い例で、公共の場での傍若無人の振る舞いをする若者や子供はその予備軍である。日本は、世界第2位の経済大国になったが、何故こんな品格のない国になったのだろうか、あるいは何故こんな品格のない人々を輩出してきたか、考えさせられる今日この頃である。



◀アフリカ地域を農村に農業能力の必要性を説くJICA二本松所長筒井

折りしも、最近のベストセラーになっていた藤原雅彦氏の著書「国家の品格」を読む機会があったが、同氏は「人間にとって最も重要なことの多くが、論理では説明できない。会津藩の「仕の掟」や武士道精神など重要なことは押し付けた方がよい」と主張

している。明治時代の教育者である新渡戸稲造の著書「武士道」では、「日本には昔から惻隠の情、卑怯を憚む心、名誉、誠実、正義を重んじる心などがあり、こうした武士道精神が日本人のバックボーンになっている」等の趣旨を述べているが、こうした儒教に基づく武士道精神や道徳や宗教について、戦後の日本では子供たちに対しきちんと教えてこなかったところに、現在の日本社会が抱える問題の根源があるのではないかとと思われる。

19世紀の哲学者のカントらは宗教を棚上げして道徳を教えられたとしたが、現実の世の中にはそれ以上に悪い人間がたくさんいて道徳的理性だけでは人間を統制できないことがわかってきた。現実、今でもキリスト教徒やイスラム教徒の多くは宗教教育なしでは道徳は教えられないと考えている。人間には理解しがたい超越した世界があり、人間はこうした未知の大きなものに対する尊敬の念が必要であり、それが神であると考え人もいる。アフリカの原始宗教における精霊信仰や神道における悪霊・怨霊に対する恐れや八百万の神など未知のものに対する畏敬の念を持つ人もいる。人間はなにか大きなもの、未知なるもの、言い換えれば「知られざる神」に対する尊敬の念を失ったら傲慢になる。私は無神論者に近い人間なので宗教のことはよくわからないが、今日の日本人の心の空白を埋めるためには、どうも道徳や宗教が必要ではないかと思うのである。



**協**力隊員は、ある意味でこうした日本社会の反面教師として帰ってくる人が多い。開発途上国で初めて貧困という現実と直面し、こうした地球規模の課題をどう克服するのか、いろいろ思い悩みながら成長する。豊かさの中にどっぷり浸かり育った日本青年が、開発途上国の現実を知ることによって日本社会や近代文明のあり方に対する素朴な疑問を抱くようになる。協力隊員は、開発途上国で貧しいながらも互いに助け合って生きている人々の姿や明るく逞しく生きている姿、家族愛、兄弟愛、郷土愛、宗教に篤い心を持った人々との出会い、年長者を敬う習慣、等々日本社会が既に失ってしまったことを体験してくる。帰国隊員の多くが「自分は技術を教えに行ったつもりであったが、実際は教わったことが多かった」との感想を述べるのは正にこういうことではないかと思う。

今の日本の子供たちを救う一番いい方法は、開発途上国に連れて行って現地の生活を体験させることである。「貧困は偉大なる教師」といわれるように、開発途上国の生活を体験することによって、いかに自分たちが恵まれ、なに不自由のない生活を送り、傲慢になっているかよくわかるであろう。5歳に

なるまでに5人のうち1人が亡くなる開発途上国の高い乳幼児死亡率、不衛生な環境の中での生活では人の死ということが身近な存在であるという厳然たる事実、貧乏で学校に行きたくても行けない子供たちがたくさんいるという現実、厳しい自然環境のもとでは宗教は人々の心の支えであり、宗教心に篤い人々がたくさんいること等々、生きていくことの苦しさや喜びを実感することができる。子供たちの開発途上国への派遣が無理なら、せめて教育の現場に立つ教師に開発途上国の生活を体験させることが極めて重要である。生きることの大切さや苦しさを身をもって体験することによって、将来を担う子供たちへの指導に役立ててもらうことが極めて重要である。そういう意味で、私は、是非日本の教師に開発途上国へ行ってほしい、さまざまな体験をして教育の現場で役立ててもらいたいと考えている。

**私**はバーチャルな世界ではなく、開発途上国という人類の8割の人が住む世界で2年間暮らすことによって得た貴重な体験や知見は、これからの日本の将来にとって必ず役立つ時がくると信じている。協力隊員に期待されている役割のひとつに、開発途上国で得た経験、知見を帰国後、それぞれの地域に還元することにある。従って、私は帰国隊員の多くがもっと教育の現場に進出して、子供たちに開発途上国の現実や生きることの大切さ、道徳や宗教等の重要性を語ってくれることを期待している。今後、福島県においては県教育委員会等に強く働きかけ、帰国隊員の教員採用試験に際し、加点制度や特別枠を設けてほしい、少しでも多くの帰国隊員が教育の現場に立って、教育改革・改善を推進してほしいと考えている。

JICA二本松所長 筒井 昇

冬号お薦めの本!!

「開発教育ってなあに？」  
編集・発行 開発教育協会(2005/3) 1,000円(税込)

1998年に発行された「開発教育Q & A集」の改訂版。教員やNGO、自治体関係者の方々の資料として、また開発教育の入門書としても有益な一冊です。  
JICA二本松の広報展示室で閲覧できます。

## 国際協力川柳

派遣時に覚えた意外な疑問と、最近の再認識から  
その国に 着陸までが 最関門  
指定され 覚悟して乗る N航空  
事故報道 それは帰国に乗った便  
命惜し 航空会社は 選ぶべき

傍然に

適任者 派遣先から 学ぶ人  
心技体 援助の基本は ここにあり  
援助して 相手も 我も 仲びるなり  
皆同じ 我故郷は この地球  
ゴチャ言うな 我等は 同じ 地球人  
金じゃない 援助の真意は 技心

※今回も県内帰国専門家OJの方からの特集第2弾として紹介させていただきます。読者のみなさまもぜひ、現在の心境など浮かんだ句をお送り下さい。お待ちしております。

(五年目の帰国専門家)



CD-Review

## CDレビュー



### 「超絶のホーミー〜モンゴルの歌」

今や日本でも有名になったモンゴルの  
俗音唱法「ホーミー」を中心とした音源集。  
ホーミーには5種類(鼻、口と鼻、声門、胸、  
喉)あり、1曲目ではこの5種を続けて  
歌う様子が聴くことができます。また、「オ  
ルティン・ドー」という歌謡曲には日本  
の「金沢明子」をホウフツとさせる民謡  
感があり、モンゴルと日本のルーツを突  
感できる、大変興味深い1枚です。

発売元:キングレコード

## 施設見学の『窓』

職場体験——安達高等学校より



▲安達高校2年生の兼谷瑛里さんと渡邊利香さん

JICA二本松で1月23日(火)から25日(木)の3日間、高校2年生の兼谷瑛里さん、渡邊利香さんの2人が職場体験学習を行いました。安達高等学校では望ましい勤労観・職業観の育成を目指し、2年生の就職希望者を対象に行っています。写真は、施設見学後の広報展示室の掲示・整理を行っている時の様子です。受入の時期により様々な体験がありますが、この他には、アーカイブ化や語学訓練の視察などを体験し、将来の職業が見えてきたそうです。目指せ青年海外協力隊!!

## 公開講座

### 「イスラム教とは何か」



▲ワークショップの様子

日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員 青山先生をお呼びして、公開講座「イスラム教とは何か」が1月15日にJICA二本松にて行われました。世界三大宗教の一つであるイスラム教は中近東のみならずアジア・アフリカ諸国にも多くの信者を抱える重要かつ興味深い宗教です。分かりやすく日常生活と関連付けて学べます。年に4回の訓練時に毎回実施していますので、皆さんの参加をお待ちしています。

JICA二本松HPより施設見学申込用紙がダウンロードできます。

※URL～ <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimuaho/taiken.html>

## 福島出身の候補生

平成18年度3次隊（二本松青年海外協力隊訓練所）

173名の候補生が入所しました。

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい・・・



中島 佳世子（出身地：郡山市舞木町、派遣予定国：タンザニア、職種：エイズ対策）

看護師として3年働いた後、青年海外協力隊に応募しました。東アフリカのタンザニアでエイズ対策隊員として、エイズの予防啓発活動を行います。

訓練所では福島県出身ということで、たくさんの方々から声をかけていただきました。日本とは違った文化の中での活動には不安がありますが、応援して下さる方がたくさんいることが、大きな勇気となっています。

大きな成果を残すことはできないかもしれませんが、現地の方と共に生活し、たくさん学び、2年後には少しでも成長したところをお見せできればと思います。



菅野 尚子（出身地：伊達市霊山町、派遣予定国：マラウイ、職種：理数科教師）

私が青年海外協力隊に応募した理由は、中学生の頃みたテレビがきっかけでした。勉強したいと思っている開発途上国の子どもたちに勉強の楽しさを伝えたいと思い、3年間の講師経験を積んだ後、応募しました。

外国で教えるということは、色々と困難にぶつかると思います。コミュニケーションの難しさ、教材や実験器具の不足など、様々な不安はありますが、それよりも、マラウイの子どもたちの笑顔が見たいという気持ちの方が強いです。その為にも、二本松訓練所での訓練で、多くの知識と言語能力を身につけ、マラウイで子どもたちとたくさんコミュニケーションをとれるよう頑張りたいと思っています。

また、仲間との出合いを大切に、お互いに支え合い、共に成長できたらいいと思います。

## 福島県出身JICAボランティア 2007.1.17現在

合計37名【JOCV(短含)、SV(短含)、日系青年、日系シニア、調整員】



〔留守宅が県外(3名)〕

活温泉の素敵なレストラン

フォレストパーク  
「あだたら」カフェ



オートキャンプ場や森林散策地として有名な「フォレストパークあだたら」。

昨年夏にはJICA留学生16名が「森との共生」を学習した研修場所でもあります。ここのカフェレストランでは、川俣シャモ肉を使った親子丼が有名で、食後には隣接する温泉や森林図書館を楽しむこともできます。

訓練所訪問のあとに、安達太良の天然水を味わいに立ち寄ってみませんか？

住所：福島県安達郡大玉村玉井字長久保68(訓練所から車で15分)

※●頁の地図をご参照下さい。

## 2月～4月のイベント情報

- 2月22日(木) ハイチ国別研修「医療機材管理・保守」コース来日
- 2月23日(金) ブータン協力隊カウンターパート研修「歯科治療技術」開講式
- 3月1日(木) 国際協力フォトコンテスト2006入賞作品展示 ～3/9まで(於:郡山みらい工房)
- 3月4日(日) ふくしま地球市民フェスティバル2007 ーアピにボスターー
- 3月12日(月) 国際協力フォトコンテスト2006入賞作品展示 ～3/23まで(於:東邦銀行会津支店)
- 3月15日(木) 平成18年度3次隊協力隊派遣前訓練修了式、壮行会  
平成18年度イラク国別研修「医療機材管理・保守」コース評価会・閉講式
- 3月17日(土) JICA東北による国際協力実体験プログラム実施(1泊2日)
- 3月26日(月) 国際協力フォトコンテスト2006入賞作品展示 ～4/6まで(於:二本松市役所)
- 4月2日(月) パネル展実施 ～4/6まで(於:コラッセふくしま)
- 4月4日(水) 平成19年度協力隊 第1次隊派遣前訓練 入所式



### 青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア平成19年度春募集「体験談及び説明会」日程

平成19年4月15日(日)より、青年海外協力隊・シニア海外ボランティア平成19年度春募集の説明会を行います。JOCV/シニアOB/OGの体験談や個別相談を行い、皆様の「聞きたい・知りたい」にお応えします。海外ボランティアに興味・関心のある方は、どなたでも説明会に参加できます。入場無料。

募集期間:平成19年4月10日(火)～平成19年5月25日(金)

#### 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア

日付	時間	開催都市	会場
4月15日(日)	14:00～16:00	郡山	郡山市民プラザ 協力隊・シニア
4月18日(水)	18:30～20:30	福島	コラッセふくしま 協力隊・シニア
4月22日(日)	14:00～16:00	会津	アピオスペース 協力隊のみ
4月27日(金)	18:30～20:30	いわき	いわき市生涯学習プラザ 協力隊・シニア
5月9日(水)	18:30～20:30	郡山	郡山市民プラザ 協力隊・シニア
5月13日(日)	14:00～16:00	福島	コラッセふくしま 協力隊のみ

#### 「一日体験」協力隊員＆シニアボランティア

4月21日(土)	09:30～14:30	二本松	JICA二本松
----------	-------------	-----	---------

参加希望の方は、JICA二本松、募集担当の異場までご連絡ください。(申し込み制)

### 編集後記

ふくしまの冬の名物といえば「いかにんじん」。初冬に出回る「長にんじん」を使ったこの郷土料理は松前漬の前身ともいわれており、福島でも北部限定商品。

ちなみに二本松は北部に入りますので、訓練所お寄りの際にはぜひご賞味あれ。

—(ジャイ男)



▲(写真)いかにんじん

### JICA二本松へのアクセス

#### 独立行政法人国際協力機構 二本松青年海外協力隊訓練所

〒964-8558  
福島県二本松市永田字長坂4-2  
TEL:0243-24-3200  
FAX:0243-24-3214  
E-mail: jicanjv@jica.go.jp

※皆様からのご意見等をお待ちしております。



◆本誌、バックナンバーがご覧になれます... URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

